

川越市駅周辺まちづくりビジョン(案) について

1. まちづくりビジョンとは

人口減少、少子・超高齢社会の進展など社会情勢の変化



将来にわたり持続可能な都市とするため、特に三駅（川越駅・本川越駅・川越市駅）周辺については、**川越市の中心部としてふさわしいまちづくり**が必要

一方で・・・

川越市駅周辺は他2駅の周辺と比較し、様々な要因から、**まちの魅力や可能性が、まだ十分に発揮できていない状況**



川越市周辺まちづくりビジョンとは

川越市駅周辺について、今後のまちづくりを進めるにあたり、関係する市民・行政・事業者等が『目指すべき将来像』を共有し、**協働でまちづくりに取り組むための『共通の指針』**とするもの。

まちづくりビジョン策定の流れ

令和6年度

11月

川越市駅周辺まちづくりアンケート調査

地域住民、高校生、駅利用者、商店会の皆様を対象にアンケート調査を実施

令和7年度

8月

第1回川越市駅周辺まちづくり懇談会

【議題】現状と課題の整理、まちづくりの方向性について

11月

まちづくりワークショップ

地域住民、学生などの方々を対象にしたグループ討議型意見交換会を実施

11月

第2回川越市駅周辺まちづくり懇談会

【議題】将来像、まちづくりの視点について

2月

第3回川越市駅周辺まちづくり懇談会(本日)

【議題】まちづくりビジョン(案)について

令和8年度

パブリックコメント(市民意見公募)の実施

まちづくりビジョン(案)に関するパブリックコメントを実施

川越市駅周辺まちづくりビジョン策定・公表

※時期は現時点の想定であり、前後する場合があります。

2. 前回のおさらい

(1) 前回の意見

①まちづくりの方向性について

No.	ご意見
1	本川越駅と川越市駅間の道路は歩行者交通量が多く、車が通行できないなどの支障が出ているため、早急な対応策を講じてほしい。
2	本川越駅と川越市駅間の道路が歩きにくいという意見は、事務局が説明したまちづくりの視点の「Walkable（安全で居心地がよく、歩きたくなるまちをつくる）」に該当する。具体的な改善内容をまち全体の方向性に置き換えたときに、どの要素が重要となるのか検討すべきである。
3	川越市駅の役割として「住宅地・商業地」と記載があるが、「行政拠点」ができれば、駅周辺の日中滞留人口が増加すると考えられる。現行の市役所周辺は観光施設として再整備するなど、旧市街地を含めたより広い視野で議論した方がよい。
4	前回の懇談会でも（川越市駅周辺には）行政機能の役割が必要ではないかとの意見があった。東武鉄道から説明のあった中間拠点都市の拠点は、川越駅・本川越駅・川越市駅であると考えられるため、3駅の強みや弱みを踏まえた役割分担を整理していくことが重要である。
5	事務局からまちづくりの視点の例示として8つ示されているが、並列の視点に濃淡を付けることで、まちの個性が表れるのではないか。
6	駅前の駐車場や西側の車両基地でなにか新しい取り組みができないか。そこには、子育て施設、図書館、支援センター、病院など、収益性を確保しつつ空間整備を検討できる可能性がある。
7	第1回懇談会での委員意見（川越市駅周辺を埼玉県を代表する一大商業地とすべき）を聞き、非常にわくわくした。実現可能性はともかく、「わくわく感」は大切であり、若者や来街者が魅力を感じる要素が必要である。
8	川越市駅周辺は「安全で東西に交流があり、自然があり、人が自然と集い憩う場所」といった空間になってほしい。現状では目的なしに過ごせる場所がなく、滞留人口を見ても通勤通学利用が中心であることがうかがえる。また、大震災時にはさいたま市とともに首都機能をバックアップできる行政集積地としたい。その方が市民も安心し、川越市の役割を全国に示せる。国や県の出先機関を誘致できるような拠点としたい。
9	「目的がなくても過ごせる」という視点は、まちづくりにおいて重要である。そのような視点から議論を広げていくことが望ましい。

②まちづくりの方向性について

No.	ご意見
10	第1回懇談会の内容を自治会内に報告したところ、（川越市駅周辺は）「子育てが非常にしにくい」との意見があった。その理由として、緑や公園が少なく、駅を降りるとすぐにタクシー乗り場となり、子どもを連れて安心して過ごせる場所がないという指摘である。そのため、「ゆとりある状況の中で広場を整備すること」が重要である。また、防災面からも駅前の空間を広く確保できないかとの意見があった。
11	駅周辺に緑やオープンスペースが少ないことが、子育てのしにくさや防災面の課題につながっている。安心して歩ける居場所としてオープンスペースを軸にすることで、多様なまちづくりの視点につながると考えられる。
12	駅周辺開発において、収益性の確保が必須である一方で、行政や地域と連携し、開発インセンティブ等を活用した公開空地（オープンスペース）の整備など、公益と収益を両立する形での検討もしていく必要がある。
13	（事務局案に）記載されているようなまちづくりの視点は、まちづくりの検討過程で比較的多く挙げられるものであると認識している。今回提示されている視点については、市が示していたフィルターを通し、施策に落とし込める形に整理できるとよいと考えている。
14	川越市駅周辺のまちづくりは、東武鉄道が所有する土地の活用が非常に重要である。今後の検討において、なにを前提とすべきか。コミュニティや緑といった議論は既に出尽くされており、東武鉄道としての前提条件を明確化しなければ計画性を欠き、まちづくりビジョンを作成してもそれで終わりになってしまう懸念がある。
15	暫定利用などの実験的な取り組みを行うこともできるのではないか。目の前の課題解決のための検討が将来の基盤整備につながる可能性もあるため、検討いただけるとよい。
16	情報を整理することで、（事務局が考えるまちづくりの）視点が8つ以上に増える可能性もある。

（2）ご意見を踏まえた、検討課題

以下の3つの視点より、ビジョンを整理する。

- ① 人中心の歩きたくなる居心地のよい空間づくり
- ② 川越市駅の特性を活かした拠点性強化
- ③ 官民連携で段階的に進めるまちづくり

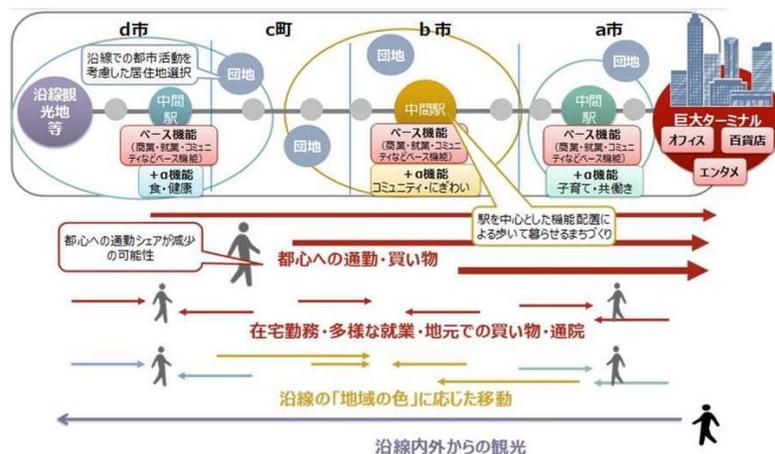
① 埼玉県西部地域の中心都市



出典：埼玉県ホームページより作成

② 都心に依存しない、「中間拠点都市」

これまでの都心部に依存した構造から、居住だけでなく就業・消費・介護・子育てなどが可能な「中間拠点都市の形成」が必要です。



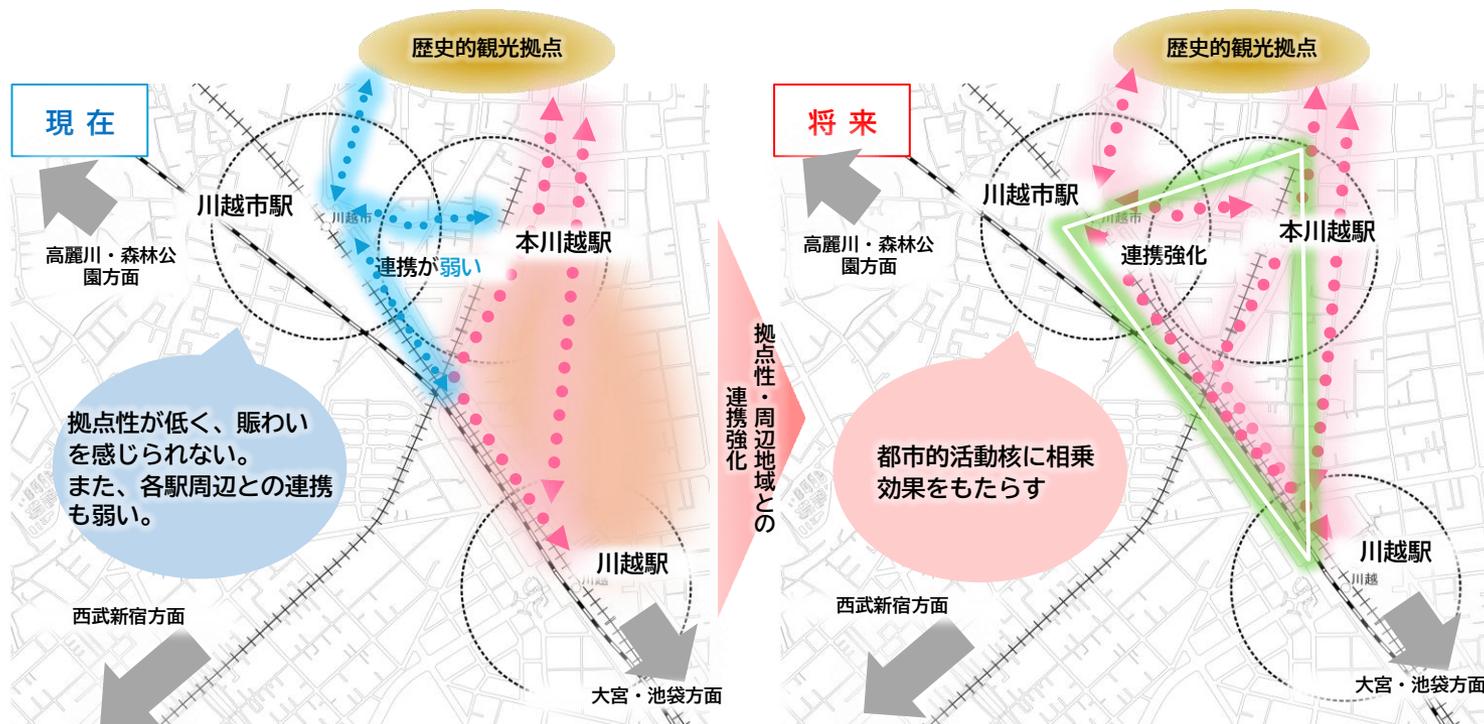
出典：国土交通省資料

埼玉県西部地域・鉄道沿線等、広域的な位置関係でのポテンシャルを活かした、**魅力のあるまちづくりが必要**

③三駅における川越市駅と連携まちづくり

- ✓ 川越市駅周辺は、まちづくりにおける**高いポテンシャル**を有しているものの、これらをまちの賑わいにつなげられていない。
- ✓ 利便性の向上による**まちなか居住の推進**や**魅力的な場の創出**など、他二駅とは違った特色を持つ拠点づくりが必要である。

■ 三駅連携のまちづくり



川越市駅の拠点性向上に加え、三駅の連携強化により、都市的活動核の更なる活性化、県西部地域の中心都市として活力維持

■ みんなの想い



川越市駅周辺では、
川越市駅・川越らしさを生かしながら、
暮らしやすく住み続けたい、にぎわいがあり訪れたいと思える、
みんなの居場所があるまちにしたい

■ 将来像



《 将来像の考え方 》

- ① まちに心地よさが感じられ、様々な人々が訪れたい魅力的な都市空間を目指す
※心地よさは「利便性」「快適性」「安全性」だけでなく、人とのつながりや様々な価値観を受け入れる「多様性」なども重視する
- ② 地域住民をはじめ、学生や来街者、企業など、多彩なまちの関係者とともに、新たな価値を創造する
- ③ 愛称「市駅」とともに、多彩な関係者との協働により、まちを成長させていく

■ まちづくりの視点

- 将来像を実現させるため、まちづくりを考えるうえで重要な6つの視点を設定



- 視点の中でも「Place」を特に意識する
- 「Place」を幹とし、5つの視点を枝葉として、さまざまな果実（取組み）を实らせ、木全体（川越市駅周辺）を成長させていくことを目指す

■ 視点を生かしたまちづくりの推進により、様々な人の活動の選択肢が広がりライフスタイルも充実



～まちに集う皆の視点を活かし、新たな価値を創造する～

● 視点ごとに抽出した課題から、4つのカテゴリー別に取り組方針を整理

将来像

「心地よく多彩な人を惹きつけるまち」と
 するために、何をなすべきか？

課題

Place

- 地域住民や駅利用者に長時間滞在してもらえるよう、滞在環境の充実が必要。
- 駅利用者等が寄り道や多様な働き方ができる環境の整備が必要。
- 回遊性創出につながる空間の形成が必要。
- にぎわいや、人との交流を支える居場所づくりが必要。

Green

- 皆が集え・憩えるとともに、魅力的で誇れるような広場空間や緑化空間の創出が必要。
- 多様な人が、日常も非日常時も居心地の良い空間づくりが必要。

Convenience

- ファミリー層や高齢者などの多様な世代の暮らしを支える都市機能（商業・医療・福祉等）の生活利便性の向上が必要。
- 子育て世代が日常利用する都市機能（保育所・小児科・公園）の充実が必要。

Legacy

- 地域特性を活かしたコンテンツの導入等、多様な人々の職能を活かしたまちづくりの参加契機の充実が必要。
- 学生や、そこに集う人たちと共に考え・行動し、まちづくりを進めていくことが必要。

Diversity

- 誰もが使いやすく、多様な人が滞在できる空間づくりが必要。
- 公共空間整備や開発等を契機としたまちの魅力づくりへの機運醸成、取組体制の構築や、企業参入の仕掛けづくりが必要。

Walkable

- 高齢者、障がい者、ベビーカー等、すべての移動者が安心して移動できるよう、道路空間のバリアフリー化等、居心地の良い歩行空間づくりが必要。
- 歩行者、自動車、自転車等が錯綜する駅前交通環境の歩車分離等、安全性の向上が必要。
- 東西における一体的なにぎわいを形成するため、東西移動の不便さの改善が必要。

取組方針

駅とまちの一体化による魅力の創出

暮らしの質を高める環境整備

安全安心+αのまちづくり

まちに関わる多彩な人の連携強化

- これらの取組みは、行政だけでなく、多彩な関係者が連携することによって実現を目指す

【取組方針1】 駅とまちの一体化による魅力の創出



川越市駅を賑わいの拠点として、周辺住民や学生、駅利用者、観光客等にとっての単なる通過動線とせず、人々を惹きつけ訪れたいくなるよう、地域や事業者等と連携して魅力の創出を図ります。

■ 取組事例

【事例】 JR大塚駅前広場（東京都豊島区）



駅前広場の再構築と広場空間の整備例

【事例】 小杉3rd Avenue（神奈川県川崎市）



広場空間を中心に、壁面や建物空間に緑化を行った例

■ まちの使われ方のイメージ（一例）



移動の合間にまちの広場でテレワークするビジネスマン



駅前広場の一部を活用し、地元商店と連携したマルシェを開催



【取組方針2】暮らしの質を高める環境整備

周辺住民、駅利用者等の潜在ニーズを満たすため、民間活力を生かした土地の有効活用により、日常・非日常のライフスタイルの質を高める都市機能の導入を図るとともに、住みやすい環境としての維持・充実を図ります。

■ 取組事例

【事例】ViNA GARDENS

(小田急海老名駅およびJR海老名駅直結の複合施設)



施設リニューアルに併せ、居心地の良さを重視しデザインした図書館

【事例】瑞穂町図書館 (東京都瑞穂町)



飲食・物販店舗、フィットネス、クリニック等で構成された複合施設

■ まちの使い方のイメージ (一例)



仕事終わり、駅前の商業施設でお惣菜を買って帰路につくサラリーマン



ポケットパークの一角で
団らんする高齢者たち

【取組方針3】安全安心+αのまちづくり



誰もが安全で快適に移動・滞在できるように、他の公共交通とのシームレスな乗り換え機能の確保、駅東西をスムーズに往来できるルート整備など、駅前の交通環境の充実を図るとともに、回遊性を高め、歩いて楽しいまちづくりを進めます。

■ 取組事例

【事例】たまプラーザ駅（神奈川県横浜市）



駅からエレベーターやエスカレーターを通じてシームレスな動線を整備した例

【事例】子ども防災訓練（神奈川県川崎市）



地域の学校や民間企業と連携した避難訓練の例

■ まちの使い方のイメージ（一例）



広がったまちなかの歩道でゆったりとベビーカーを押す家族



日常的には学生の居場所となり、いざという時には避難地となり得るオープンスペース

【取組方針4】まちに関わる多彩な人の連携強化



周辺住民のほか、来街者、教育機関、企業などの様々な人や、コンテンツを掛け合わせ、新たな価値を創造するとともに、連携体制を構築し、まちに集う多彩な主体のつながりを強化していきます。

■ 取組事例

【事例】草薙カルテッド（静岡県静岡市）



産・学・官・民が連携したまちづくり活動体制

企業を学校に招き、出張授業を開催

【事例】食育活動（東京都）



■ まちの使われ方のイメージ（一例）



まちの公共空間を活用して様々なイベントを行うプレイヤーたち

地域住民、地元商工会、学生等、様々な立場の人が集う検討の場



